

対象	小学校中学年以上
教科	総合
該当 単元	静岡 「茶草場農法」
教科書	
掲載日	2014. 6. 24. 東海本社発行朝刊 17 面

# 緊張「一芯二葉」丁寧に

## 掛川 茶草場農法実践の農園

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の実践域の一つ、掛川市東山で二十三日、同市中央小学校の三年生百人余りが、最盛期の二番茶の茶摘みをした。茶業を学ぶ総合的な学習として、東山の茶農家松浦永治さん(三巴)と、荒茶を仕上げて消費地に出荷する「大塚製茶」の大塚裕彦さん(四三)が協力した。

子どもたちは茶園の畝間に一列に並び、柔らかな芽の先から二枚目の葉までの「一芯二葉」で摘んでいった。

茶葉は、地元の富士東製茶工場で荒茶になり、大塚製茶の工場で仕上げ茶になって各家庭に配られる予定。学校でも天ぷらにして味わうという。

岩清水優希(優希)君(八)は「お茶は家で急須を使って飲んでい

る。初めての茶摘みを家族に報告します」と話した。

(佐野太郎)

## 中央小児童が茶摘み体験



二番茶の新芽を慣れない手つきで摘む子どもたち＝掛川市で

問1：「一芯二葉」とは、どの部分でしょう。

( )

問2：「世界農業遺産」に認定された静岡県の農業をなんとよびますか。

( )

問3：茶草場農法について、自分で調べてまとめてみましょう。

茶園の( )の間に、( )や( )を主とする、

かりとった( )をしいて行う伝統的な農法のこと。この茶草

によって、お茶の( )や( )がよくなるといわれている。